JR総連及びJR東労組への革マル派の浸透に関する質問主意見書

提出者
佐藤
勉
私は昨年四月二十七日に「革命派によるJR総連及びJR東労組への浸透に関する質問主意書」（第四三三〇号）を提出した。これに対して、鳩山内閣は五月十一日に「革命派の社会的な危険性を指摘し、JR総連（全日本旅客鉄道労働組合総連合会）及びJR東労組（東日本旅客鉄道労働組合）の行方を看護する立場に革命派活動家が相当浸透していると認識している。」（第四三〇号）（以下「前回答意見書」という）を閣議決定した。また、日の衆議院予算委員会における答弁で、中井治国家公安委員会委員長は「私どもは、JR総連、JR東労組と革命派の関係については、革命派が相当浸透していると認識しているのは事実でございます。」と改めて明言した。
考える。

以上の認識に基づき、内閣が交代したことを踏まえ、あらためて以下質問する。

革マル派については、前回答における日本革命的共産主義者同盟革命的マルクス主義派（以下「革マル派」という。）は、共産主義革命を起こすことを究極の目的としているが、これまでも、火災ひんの使用等の処罰に関する法律（昭和四十七年法律第十七号）違反事件が起こっている。革マル派は、将来の共産主義革命に備えため、その組織拡大を重点を置き、周囲に警戒心を抱かせないよう党派性を隠して基幹企業の労働組合等の各層への浸透を図っていくものと見られる」と回答しているが、その解釈は今でも変わらないか。